



毎月1回、中旬の水曜日に掲載

今月のひとこと
 コロナが5類へ移行しましたが、普通の風邪と同じ扱いをするにはまだ、早いと考えます。予防接種を受けたり、抗コロナ薬を使用したり、適切な感染予防策を行ってください。

これからどうなる COVID-19? 5類移行後の感染症対策

浜町小児科医院
 遠藤 徳之



えんどう・のりゆき 1969年小田原市生まれ。静岡聖光学院高等部卒、杏林大学医学部卒、順天堂大学小児科入局。山梨県立中央病院、日野市立総合病院、多摩南部地域病院を経て平成16年医療法人社団浜町小児科医院、平成23年度より小田原医師会理事に就任。資格は小児科専門医、インフェクションコントロールドクター認定医、日本医師会認定健康スポーツ医。

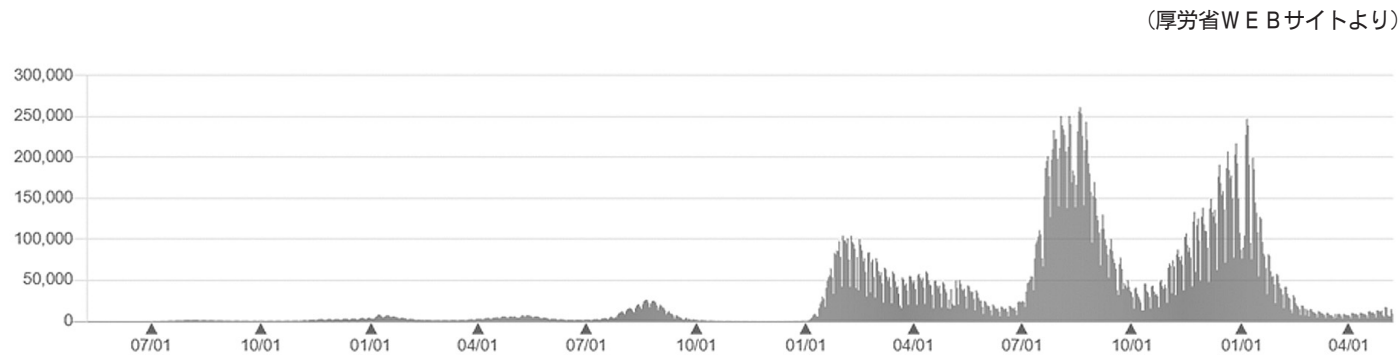


図1. 新規陽性者数の推移

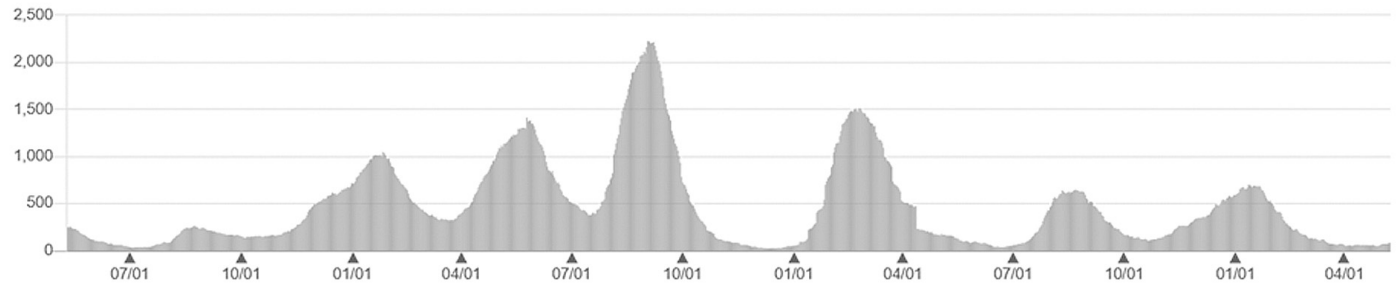


図2. 重症者数の推移

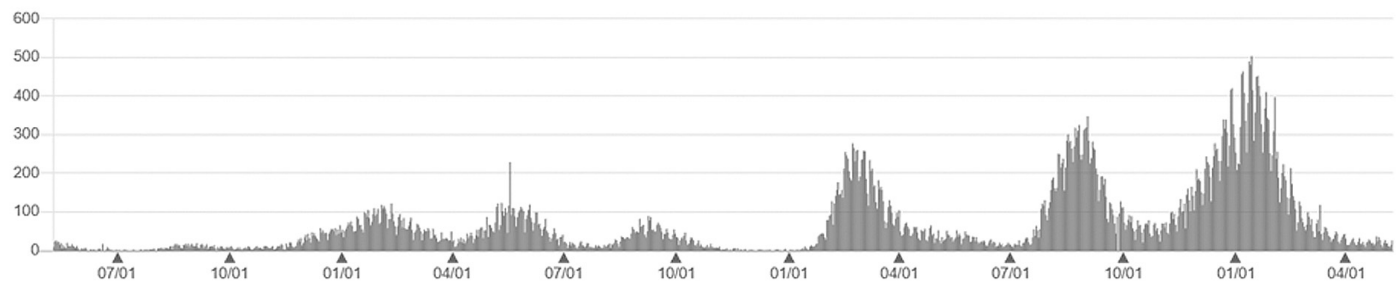


図3. 死亡者数の推移

表1 コロナ(オミクロン)と季節性インフルエンザの比較

	コロナ(オミクロン)	季節性インフルエンザ
潜伏期	約3日	約2日
最も感染力の強い期間	発症2日前から発症後5日間	発症後3~4日間
ウイルス排出期間	発症後約10日間まで	解熱後2日間まで (子どもは、発症後7~10日間)
学校の登校基準	発症した後5日を経過し、かつ症状が軽くなってから1日を経過してから	発症した後5日を経過し、かつ解熱した後2日(未就学児は3日)を経過してから
予防接種適応年齢	生後6か月から	生後6か月から
予防接種の有効率	90%以上	50~60% (子ども25~60%)
抗ウイルス薬適応年齢	12歳から	1歳から(0歳でも症状により)

(注1) 学校の登校基準を過ぎても、発症後10日間くらいはウイルスを排出します。周囲の人につくさぬよう、マスクを着用しましょう。

II COVID-19の現状

- 1 最近の感染者数の推移 (図1)
 確かに最近では、患者数が少ない状態が続いていますが、しかし、今までの患者数はどうでしょう。第1波から感染者数は、毎回増加傾向です。また、これからは全患者を届出しないことになることから、流行状況が把握しづらくなります。
- 2 重症患者の推移 (図2)
 重症患者数は、減少していると思えます。重症化している為、非典型例も多くなり、診断されにくいことも多くなったと思います。2.で出てきている患者数より、実際は多いと考えられます。重症化率は、以前よりかなり低くなりました。
- 3 死亡者数の推移 (図3)
 第1波から死亡者数は、毎回増加傾向です。重症化率が低くなっていると言ったばかりですが、実際の患者数も多いためかと思えます。若い方は少ないですが、高齢の方や基礎疾患のある方などのハイリスク群では、普通の風邪とはまた違い、えんどうくわい亡くなっています。

III COVID-19(オミクロン株)と季節性インフルエンザの比較 (表1)

- 1 感染力とウイルスの排出期間
 インフルエンザと違いコロナは、症状の出る2日前から感染力が強い為、感染予防が難しくなります。基本的には、換気、手洗い、マスクの着用(注1)・予防接種等が有効な感染対策だと考えます。学校の登校基準より、ウイルスの排出期間が長い為、発症後10日間は周りの人につくさぬようマスクを着用しましょう。
- 2 予防接種
 インフルエンザよりコロナの有効率は高いです。予防接種により重症化・後遺症予防などの効果があると報告もあります。今の予防接種よりも、もっと効果のある予防接種の開発が必要だと思えます。しかし、接種する方が少ないより、重症化・後遺症予防の効果が高くなることの方が高いと思えます。
- 3 抗ウイルス薬
 インフルエンザと比較すると12歳未満に使える抗ウイルス薬が、コロナにはありません。抗コロナ薬は、臨床症状が1日早く軽快するといわれています。ウイルス量を早く減らすや後遺症を低下させるという報告も出てきました。当院の症例では、使用した方が家庭内感染を統計学的有意差をもって低下させました。新しい薬の為、効果がこれから実証されると思えます。抗インフルエンザ薬のような効果があることを期待しています。抗インフルエンザ薬が発症から48時間以内の使用といわれます。抗コロナ薬の場合は、薬の種類によって発症から72時間以内・5日以内に使用と条件が異なります。抗コロナ薬使用を考えた場合は、発症後2日以内くらいで医療機関受診を考えてください。

IV これからの対策

COVID-19を抑え込む方法が無い以上、一般の風邪のように付き合っていくか、あるいは一般的な風邪より死亡者・重症者が長く続く方が多いことから、今ある予防接種や抗ウイルス薬をうまく使用していくか、あるいは、コロナが流行して3年経過し、必要な感染予防策(換気、手指消毒・マスク着用等)も実践してきたと考える。個人のリスク因子の有無やスケジュール上の理由や、必要な時期・場所で、必要な感染予防策を実施する。体調不良時は、2日以内くらいで医療機関受診を検討する。今ある予防接種・薬の効果から最大限生かせる使用方法、新しい予防接種や12歳未満の抗コロナ薬等の開発などが期待される。

新型コロナウイルス感染症対策
 これまで屋外では原則不要、屋内では原則着用としていましたが
令和5年3月13日から
マスク着用は個人の判断が基本となります

ただし、以下のような場合には注意しましょう

- 周囲の方に、感染を広げないためにマスクを着用しましょう
 - 受診時や医療機関・高齢者施設などを訪問する時
 - 通勤ラッシュ時など混雑した電車・バスに乗車する時
- ご自身を感染から守るためにマスク着用が効果的です
 - 高齢者
 - 慢性肝臓病、がん、心臓病、糖尿病、など
 - 妊婦

重症化リスクの高い方が感染拡大時に混雑した場所に行く時
 本人の意思に反してマスクの着用を強いることがないよう、個人の主体的な判断が尊重されるよう、ご配慮をお願いします

厚生労働省

次回は6月中旬「腰痛について」を掲載する予定です。

5月

日	月	火	水	木	金	土
						13:30~14:30 内科 神経内科
7	8	9	10	11	12	13
						13:00~14:00 整形外科
14	15	16	17	18	19	20
13:30~14:30 腎不全 循環器科	13:00~14:00 内科		13:00~14:00 内科	13:00~14:00 小児科	13:30~14:30 産婦人科	
21	22	23	24	25	26	27
				13:30~14:30 耳鼻科	13:10~14:15 皮膚科	
28	29	30	31			
13:30~14:30 内科	13:30~14:30 内科	13:30~14:30 神経内科				

6月

日	月	火	水	木	金	土
						13:00~14:00 小児科
4	5	6	7	8	9	10
		13:00~14:00 内科	13:00~14:00 整形外科	13:00~14:00 循環器科	13:00~14:00 内科	14:30~15:30 産婦人科
11	12	13	14	15	16	17
		13:30~14:30 腎不全 循環器科	13:30~14:30 内科	13:30~14:30 内科	13:30~14:30 耳鼻科	
18	19	20	21	22	23	24
		13:00~14:00 内科				13:30~14:30 内科 神経内科
25	26	27	28	29	30	
13:30~14:30 内科	13:30~14:30 内科	13:30~14:30 内科	13:30~14:30 神経内科	13:15~14:15 皮膚科		

小田原医師会地域医療連携室では医師による電話相談を行っています。無料です。事前にお電話ください。

0465-47-0833

小田原医師会より住民の方々へ

〈上記の問合せ先〉
小田原医師会地域医療連携室 ☎0465-47-0833
 月曜~土曜 (日曜、祝・休日、12/29~1/3休み)
 午前9時~正午/午後1時~午後5時

医療機関検索は
 小田原医師会のサイトから利用できます
<https://www.odawara.kanagawa.med.or.jp/>

小田原市・箱根町
 真鶴町・湯河原町
 の方対象